

APP 環境新聞

発行日 2023年12月28日

発行者 エイピー・ジャパン株式会社 (APP ジャパン)
ユニバーサル・ペーパー株式会社 (UP)



APPは持続可能な開発目標 (SDGs)を支援しています。



エコプロ2023でのAPPブースの様子

【エコプロ2023】～ご来場ありがとうございました～

エイピー・ジャパン株式会社(以下、APPジャパン)とユニバーサル・ペーパー株式会社(以下、UP)は、2023年12月6日から8日にかけて東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催された「エコプロ2023」に出展しました。

昨年に引き続き、売上の一部を寄付してインドネシアの森を再生する「森の再生プロジェクト～いっしょにSDGsに取り組もう!～」(以下、森P)の現地活動を担うベランテラ環境保護基金のドリー事務局長が来日し、**1年間の活動をまとめた記事**を号外として配布した他、森Pに貢献をいただいているお客様を招いて感謝状をお渡ししました。



APP環境新聞号外



ドリー事務局長よりお客様に森P貢献に対する感謝状を授与

【次世代交流】～筑坂高校との連携ワーク～

APPジャパンは、今年も筑波大学附属坂戸高等学校(以下、筑坂高校)と様々な共同取り組みを行い、次世代を担う学生との交流を深めました。

7月には、1年生160人に対してAPPの持続可能な森林管理について出前授業を行いました。学生からは、「なぜSDGsに力を入れているのですか?」などの質問があがり、企業が生き残りのためにSDGsに貢献することの重要性を伝えました。

8月には、筑波大学との高大連携によるインドネシア・フィールドワークにおいて、参加した生徒や引率の教員にAPPの工場や管理する森林を案内し、森Pの現場では記念植樹も行いました(別掲記事「『月刊インドネシア』に記事が掲載されました」参照)。

その後11月には、筑坂高校が毎年主催している「高校生国際*ESDシンポジウム」の中で分科会の一つを担当し、フィールドワークに参加した生徒が中心となって作成した**森P紹介動画**の発表会を行いました(別掲記事「高校生による森P紹介動画を公開」参照)。

この動画は、12月のエコプロでも当社ブースで放映され、12月8日には作成した生徒やフィールドワークに参加した卒業生をブースに迎えて、改めて発表会を開催すると共にベランテラ環境保護基金ドリー事務局長より皆さんに感謝状をお渡ししました。

来年以降も、グローバル人材育成やSDGs教育に資する貢献ができればと思います。

*ESD: Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育)



出前授業の様子



エコプロでの発表会の様子



ドリー事務局長より感謝状を授与

COP28にAPPも登壇



COP28で講演するエリム・スリタバ

今年11月30日～12月12日、UAE・ドバイで国連気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)が開催され、APPも参加しました。

インドネシア・パビリオンにおいて、APP持続可能性担当役員エリム・スリタバと他2名が、気候変動の緩和に繋がる取り組みとして女性の地位向上支援、廃棄物のバイオマス燃料化、森林再生活動を紹介しました。

高校生による森P紹介動画を公開

高校生国際ESDシンポジウム(主催・筑坂高校)において、筑坂高校生が作成した森P紹介動画を公開しています。高校生の力作をご覧ください。

<https://youtu.be/IKOAL16pJhE>



高大連携フィールドワーク紹介動画を公開

筑坂高校と筑波大学によるインドネシア・フィールドワークには、APP本社の広報チームも帯同し、紹介動画を作成しました。こちらからご覧ください。

<https://youtu.be/pIP7SWQhS2s>

高校生向けにAPPジャパン企業訪問プログラムを実施

2023年10月4日、修学旅行で都内を訪れた広島県立福山明王台高等学校の生徒38名が引率の教員と共にAPPジャパンとUPの本社オフィスを訪れました。今年5月に愛知県の中学校2校の生徒を迎えて以来、3回目の企業訪問プログラム実施となりました。

冒頭に両社の代表取締役会長タン・ウィ・シアンより生徒の皆様に歓迎の挨拶を行い、その後、APPグループが日本で販売している製品と、その生産プロセスやSDGs達成に向けた取り組みについて紹介しました。最後に、事前に寄せられていた質問に回答した後、森Pロゴのステッカーや対象製品を贈呈しました。生徒の皆様の印象に残る機会となれば幸いです。



福山明王台高等学校による当社訪問の様子

『月刊インドネシア』に寄稿記事が掲載されました

一般財団法人日本インドネシア協会が発行している会報『月刊インドネシア』2023年11月号において、当社山崎の寄稿記事「製紙メーカーSDGs実践現場を高校・大学生が視察 ～インドネシア・フィールドワーク・レポート～」が掲載されました。

今年8月に、筑坂高校と筑波大学の卒業生を含む生徒・学生と教員計19名が高大連携によるインドネシア・フィールドワークにおいて、APPの工場や植林地、支援先の農家などを視察しました。

身近な紙がインドネシアでどうやって作られているのか、どのように森林管理がなされているのかを確認し、最後に森Pの現場で記念植樹を体験した一連の活動が記述されています。

『月刊インドネシア』については[こちら](#)から。



月刊インドネシア
2023年11月号

「APPはこう考える」～再生紙とバージンパルプ紙②～

紙は6回ほどしかリサイクルできないため、古紙パルプとバージンパルプが循環しながら成り立っている素材です。紙製品には様々な種類があるので、「古紙パルプを使うべき紙」と「バージンパルプを使うべき紙」の棲み分けこそが重要だと考えます。

古紙パルプの特徴は、何と言っても低コスト。そのため、新聞紙や段ボール等、安価で大量に必要とされる紙に向いています。

一方、バージンパルプの特徴は不純物の無さ、白さ、強度といった品質面の優位性。その特徴を活かせるのは、衛生用紙（トイレットロールやペーパータオル）、情報・印刷用紙などが挙げられます。

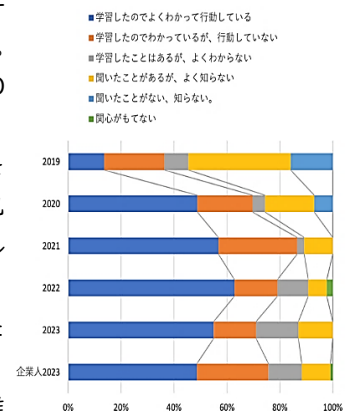
今後、特に先進国では紙の需要の減退により、古紙パルプの供給が先細ると言われています。全ての紙を再生紙で賄うことは現実的でない以上、製品種類ごとに古紙パルプ品とバージンパルプ品の棲み分けがますます必要になってくると考えます。

JEI SDGs サーベイ 2023年度調査を今年も全社で実施しました

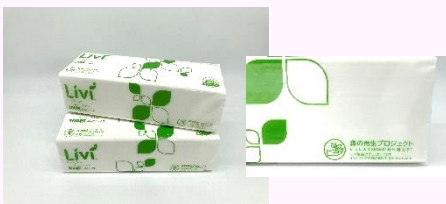
APPジャパンでは、企業会員として一般社団法人日本エシカル推進協議会のエシカル教育推進ワーキンググループに所属し、SDGsサーベイを2018年から毎年実施しています（UPも2021年より実施）。これは、社員全員を対象に、SDGs認知度とともにSDGs達成のための具体的なエシカルアクション50問について回答するものです。

毎年の回答結果から経年変化を読み取り、組織のエシカルアクションに向けた活力ポイントや課題を抽出しています。特にこのサーベイが大学や高校でも環境授業の前後に実施され、その学習効果を自己診断する結果が得られることから、ESDの取り組みの一環として日本の高校生とインドネシアのフィールドワークを協働実施する上でも、学生の皆さんに劣らないよう継続して取り組んでいます。

本年度は、昨年度よりも「SDGsを学習したのでよくわかっている」人は一般企業人よりも増えましたが、「よくわかって実践している」傾向値が低下していました。また、「聞いたことはあるがよくわからない」という社員も、組織の新陳代謝の中で一昨年よりも増加傾向にある結果となりました。今後は森Pで推進する森林再生をテーマに、実践につながる情報共有を強化し次年度へのよりよい発展を目指します。



ここにも「森の再生プロジェクト」ロゴ - 対象製品の紹介



Livi ペーパータオル (順次変更)
(ユニバーサル・ペーパー株式会社)



Hello キッチンタオル
(ユニバーサル・ペーパー株式会社)

進捗情報 (2023年12月現在)
累計植樹面積: 90ヘクタール



森の再生プロジェクト 参加方法

1. 「森の再生プロジェクト」の対象製品を購入する
2. 個人・法人等で寄付をお考えの方
→ APPジャパンにご連絡ください (sustainability@appj.co.jp)

APP 環境新聞バックナンバー

こちらよりご覧いただけます

<http://www.app-j.com/topics/1673.html>